

Twitter Auto
Favo
テストソフト仕様
書

目次

やりたいこと

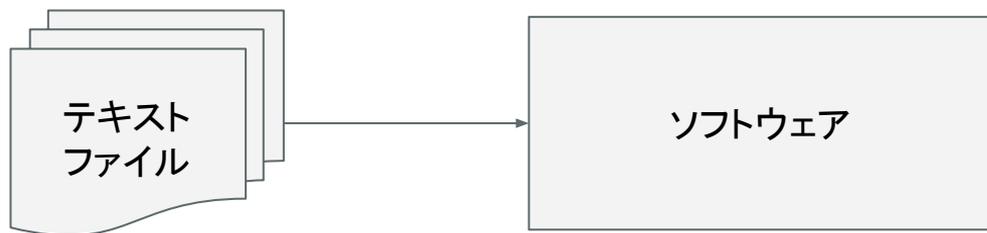
- ユーザーは自分だけにする
- 設定をデータベースに保存する
- Twitter OAuthに対応させる

よく分かっていないこと

- データベースファイルの使い方
- データベースをPythonで扱う方法
- OAuthをウェブ上で処理する方法
- OAuthの後得られるトークンとパスの意味合い、使い方
- 複数のユーザーがデータベースにアクセスした場合の応答
- データベースにOAuth情報を格納する場合のセキュリティ性

第1ステップ

- OAuthのトークン、パス取得はweb処理ではなく「手入力」とする
- データベースファイルの代わりにテキストファイルを使う



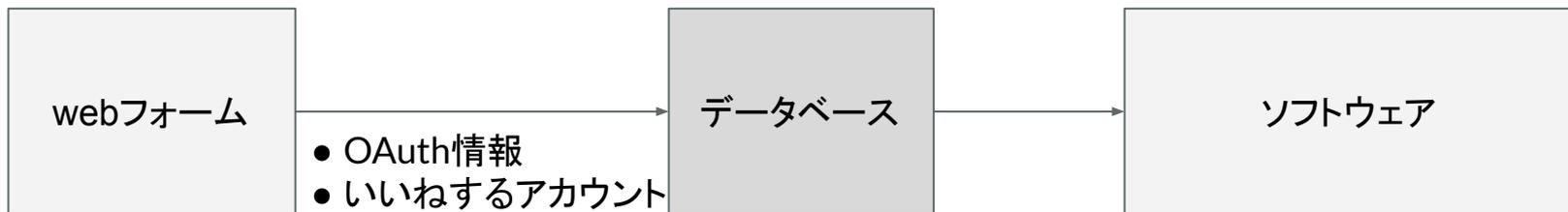
第2ステップ

- OAuth情報やいいねをするアカウント情報をwebで入力する



第3ステップ

- テキストファイルをデータベースファイルへ置き換える



テストソフト作成中に気付いたこと

- <要検討事項-仕様>リツイート、メンション、リプライに関して
 - いいねを付けない仕様とすべきか
 - ユーザー本人に対するメンション、リプライには、いいねを付けるべきか？
 - ユーザーがそれらを設定できるよう、選択の幅を与えるべきか？
 - 【思想】リツイートにいいねを付ける仕様とすると、いいねをつけるユーザー範囲を制限できなくなる。
 - 【思想】ユーザー経験に悪影響を与えかねないので、リツイートへのいいねは制限したい。
 - 【思想】メンションは、ユーザー本人に対するものと、本人以外へ向けられたものを区別して考える。
 - 【思想】ユーザー本人以外へのメンション、リプライも、上述のリツイートと同様に影響範囲を絞り込めない。
 - ~~【思想】ユーザー本人以外へのリプライ、メンションには、いいねを付けない。ユーザー本人へのリプライ、メンションには、いいねを付ける仕様とする。次ページで検討~~

【設計思想】RT、リプライ、メンション

いいね対象アカウントからのRT、リプライ、メンションに対して、いいねをつけるべきか考え、思想をまとめます。

■RT

全てのRTに対していいねを付けない。

理由: RTの発信源が無制限のため、意図しないツイートをいいねしかねない。

■リプライ(1/2)

分類1: 自分以外へ向けられたリプライには、いいねを付けない。

理由: 特定のアカウントへ向けられた攻撃的な内容である可能性があるため。

<次ページへ続く>

【設計思想】RT、リプライ、メンション

■リプライ(2/2)

分類2: 自分へ向けられたリプライにも、デフォルト設定ではいいねを付けない。ただし、ユーザーの好みによって、いいねを付ける設定も選択可能とする。

理由: ユーザー自身にリプライが届く頻度は、1日につき2, 3回程度と想定。

また、いいねを付ける対象アカウントが何らかの意思表示、要望などを求めている可能性もある。原則としてユーザーがリプライを個別に確認し、手動で反応することが好ましいと考える。

ただし、いいねを付ける対象アカウントが、雑談のような発信しかしない場合などもある。その場合、慎重に対処を考える必要が無いかもしれないので、ユーザーが望めば、それらのアカウントからのリプライにも自動でいいねを付ける。

<次ページへ続く>

【設計思想】RT、リプライ、メンション

■メンション

分類1: 自分以外へ向けられたメンションに、いいねを付けない。

理由: 特定のアカウントへ向けられた攻撃的な内容である可能性があるため。

分類2: 自分へ向けられたメンションに、いいねを付けない

理由: ユーザーは、極稀にいいね対象アカウントからメンションツイートを受け取ると推測する。頻度としては、数週間に1回程度と想定する。

また、個別の要望、意思表示を含む可能性がある。

低頻度であること、またユーザーによる個別のアクションが求められる可能性があることを考慮し、自動でいいねを付けないべきと判断する。